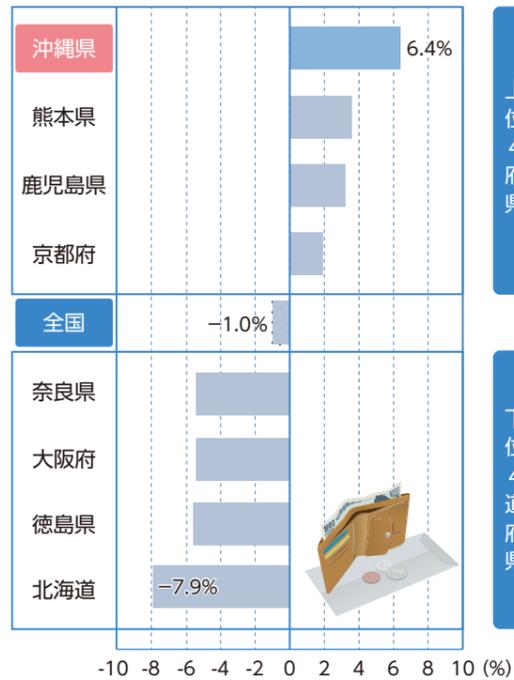


現金給与額の増加率 (2012年/2008年)



6.4%

年末調整の手続きを行うこの時期、サラリーマンにとって自分の給与が何かと気になる季節ではないだろうか。

賃金構造基本統計調査によれば、2012年の沖縄県内における一般的な社員の「決まって支給する現金給与額」は25万円。2008年と比較した増加率は6.4%となり全国トップとなっている。

「決まって支給する現金給与額」とは基本給に残業手当、通勤手当なども含んだ金額のことをさす。全国平均の同時期の伸び率が-0.1%となっている中、県内においては順調な経済成長を背景に、社員の給与額も上昇基調にあるようだ。ただ、金額レベルで比較すると46位。「給料、まだまだ安いな」というのが多くの県民の実感ではないだろうか。そろそろ、ボーナスの季節。全国的な景気回復の波に乗り、県内においてもさらなる賃金上昇を期待したい。

(海邦総研・島田尚徳)

LCC系国内路線の就航数 (2013年11月現在・那覇空港)

順位	空港名	就航数
1	羽田	21
2	成田	19
2	札幌	19
4	那覇	17
5	関西国際	15
6	神戸	12
6	福岡	12
8	石垣	8
9	鹿児島	6
9	宮古	6

17路線

「LCC元年」といわれた2012年から一年。スカイマークやソラシドエアのような格安航空会社や新興航空会社を含めると「LCC系航空会社」の路線網は全国に広がっており、帰省や観光、出張に一度は利用された方も増えているのではないだろうか。サービスの簡略化、地方中小空港への乗り入れなど、さまざまなコスト削減策には賛否両論あるようだが、「格安運賃」の魅力は捨てがたい。

LCC系航空会社が乗り入れる国内空港の国内就航数（乗り継ぎ便含む）を集計すると、那覇空港は17路線で第4位。8位の石垣、9位の宮古を含めると31路線で、全都道府県の中では全国1位の就航数となっている。

国内就航のLCC系航空会社は現在7社。お財布に優しい空路の充実は観光客のみならず県民にも嬉しいところ。来年以降も就航増に期待したい。

(海邦総研・屋比久有紀)

駅のバリアフリー化割合 (2013年3月末現在)

都道府県	全駅数	基準に適合した駅数	割合 (%)
1位 沖縄県	15	15	100.0
2位 神奈川県	380	319	83.9
3位 東京都	757	622	82.2
4位 大阪府	512	391	76.4
5位 埼玉県	234	164	70.1
6位 愛知県	495	330	66.7
7位 千葉県	353	222	62.9
8位 兵庫県	379	219	57.8
全国	9,489	3,997	42.2

100%

交通バリアフリー法とハートビル法を一本化した「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」が施行され、今年で7年。各地の移動交通手段において、どこでも・だれでも・自由に・使いやすい“ユニバーサル社会”への取り組みが進められている。

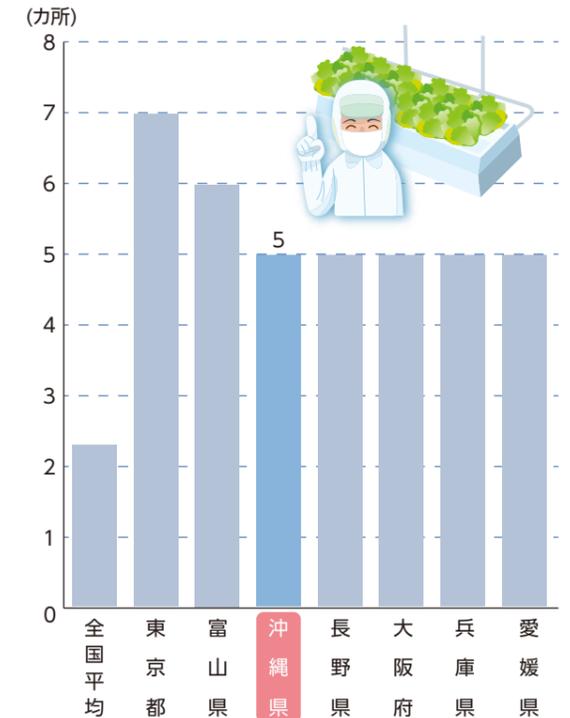
沖縄県内では、“駅”で、車椅子の方を目にすることが多く、モノレールは、幅広く県民の“足”を担っているようだ。

国土交通省「鉄軌道駅および鉄軌道車両のバリアフリー状況（2013年3月末）」によると、県内の駅における段差解消等バリアフリー化割合は、100%と全国トップ。全15駅で「公共交通移動等円滑化基準」に適合している。

交通渋滞が予想される年末年始。バリアフリー化された駅の設備を確認しながら、モノレールを利用されてはいかがだろうか？

(海邦総研・安田ひろみ)

植物工場数（完全人工光型） (2011年3月時点)



5カ所

野菜市場を変える可能性を秘めた植物工場が注目を集めているようだ。植物工場とは、光、温度、湿度、CO₂濃度などの環境条件を制御した屋内施設で、農作物の生産を行うシステムである。

一般社団法人日本施設園芸協会のホームページによると、完全人工光型（完全に閉鎖された空間の中で、蛍光灯やLEDなどの人工の光で野菜を作る）の植物工場の数で沖縄県は5カ所と全国でも3番目に多い。全国先進地なのだ。

天候に左右されず無農薬作物を安定供給でき、高齢者や障がい者を雇用できるなどの利点も多い。一方で、コストの縮減、栽培品種の拡大、栽培従事者の人材育成など乗り越えるべき課題もある。

今後は、販路開拓、運営コスト軽減のために植物工場の海外進出も増えるだろう。将来的には沖縄ブランドの野菜が世界各地の市場にならぶことを願いたい。

(海邦総研・湧川竜也)